

●RWC2019日本大会のレガシーを活用したスポーツ振興・地域活性化 [幹事県 福岡県]

[目的]

RWC2019日本大会を誘致し、成功させた経験やノウハウを活かし、国際イベントの開催や誘致、インバウンドの呼び込み、新たなスポーツ市場の創出等に九州・山口一体となって取り組み、スポーツ振興及び地域活性化を図る。

[取組内容]

- (1) RWC2019成功のノウハウを活かした国際イベントの誘致・開催
- (2) 欧州・大洋州等のインバウンド対策の推進
- (3) 新たなスポーツ市場の創出に向けた取組み
- (4) ラグビー人口の拡大とアジアとの交流によるラグビーアイランド九州の実現

[主な取組状況(知事会議での報告状況等)]

- 令和元年11月 第154回九州地方知事会議
 - ・福岡県が「ラグビーワールドカップのレガシーを活用したスポーツ振興・地域活性化宣言」を提案。第36回九州地域戦略会議において政策連合の取組みとして承認され、今後の検討を開始。
 - ・その後、本政策連合の取組みとして、「ツール・ド・九州・山口」についての課題の抽出や概算費用の算出などについて、議論することとなった。
- 令和2年5月 第37回九州地域戦略会議
 - ・九州経済連合会(事務局)が、「ツール・ド・九州・山口」の開催可否の検討を行うため、各県及び経済団体による検討委員会の設置を提案し、承認された。
- 令和2年10月 第38回九州地域戦略会議
 - ・九州経済連合会(事務局)が、大会コンセプト(競技型、サイクリング型の併催)を提案し、承認された。
- 令和3年5月 第39回九州地域戦略会議
 - ・大会基本計画案(イベントコンセプト、開催地、組成等)が審議、承認され、福岡、熊本、大分の三県が国際サイクルレースの開催地として決定
- 令和3年10月 第40回九州地域戦略会議
 - ・「ツール・ド・九州2023」の開催に向けた準備状況について報告。
- 令和4年5月 第41回九州地域戦略会議
 - ・「ツール・ド・九州2023」の開催に向けた準備状況について報告。
 - ・一般社団法人ツール・ド・九州の設立について報告。
 - ・ツール・ド・九州ワーキンググループの新規設立案について報告。
- 令和4年10月 第42回九州地方戦略会議
 - ・「ツール・ド・九州2023」のUCI認定について報告。
 - ・「ツール・ド・九州2023」PR動画配信開始について報告。
- 令和4年10月 第44回九州地方戦略会議
 - ・「ツール・ド・九州2023」の概況について報告。
 - ・「ツール・ド・九州2024」の開催に向けた準備状況について報告。
 - ・「ツール・ド・九州2025」の開催に向けた準備スケジュールについて報告。

[成果]

- (1) 九州・山口が一体となった国際スポーツ大会や合宿、国際会議等の戦略的な誘致、及び協働(ソフト)と共用(ハード)による大規模大会の誘致・開催を目指し、W.G.を設置
競技型「ツール・ド・九州2023」とサイクルツーリズム「ディスカバー九州」に関して、具体的な準備を進めるため、九州地域戦略会議のもとに「ツール・ド・九州2023実行委員会」及び「ディスカバー九州推進委員会」を設置
「ツール・ド・九州2023」に関し、UCIからクラス1認定を取得し、**2023年10月に福岡県・熊**

~~本県・大分県を舞台に初開催を迎えた。大会実施に向けた準備を推進。~~

第2回大会となる「ツール・ド・九州2024」に向け、実行委員会を設立。大会実施に向けた準備を推進。

- (2) 九州・山口が一体となり、「観光地『KYUSHU』のブランド力向上」「観光人材育成」「外国人観光客の来訪促進」「外国人観光客の滞在・消費促進」に向けた取組みを行うため、W.G.を設置
- (3) スポーツと他分野（健康、食、旅行等）の融合による市場の活性化を図るとともに、VR観戦やスポーツセンシングなどIoTを活用した新たな市場の創出等を目指し、W.G.を設置
- (4) ラグビー人口を拡大するとともに、九州・山口地域とアジアの青少年が参加するラグビー交流大会を開催する。また、トップレベルのラグビー大会の誘致・開催を目指し、W.G.を設置

【課題】

九州・山口が一体となり、国際イベントの誘致や新たなスポーツ市場の創出、インバウンド拡大等に取り組むため、官民での情報共有や連携といった効果的な手法の検討

【今後の取組】

- (1) 「ツール・ド・九州~~2024~~2023」及び「ディスカバー九州」の具体的な準備を推進。
UCI認定の国際サイクルロードレースとして、「ツール・ド・九州~~2024~~~~2023~~」を開催（~~2024~~~~2023~~年10月）。
「ツール・ド・九州~~2025~~~~2024~~」について、UCIへの公認申請を行い、開催準備を推進。
- (2) ①観光地「KYUSHU」のブランド力向上プロジェクト、②観光人材育成プロジェクト、③外国人観光客の来訪促進プロジェクト、④外国人観光客の滞在・消費促進プロジェクトの推進に関して、九州地域戦略会議のしごとづくりPT内「インバウンド対策の推進」にて議論
- (3) スポーツツーリズムの推進（各県に存在するスポーツツーリズム資源の抽出と市場活性化策の検討）
IoTなどを活用した新たなスポーツ関連製品・サービスや開発動向に関する情報共有
- (4) 中学生へのタグラグビーの普及促進（中学校授業におけるタグラグビーの実施を支援）
アジアラグビー交流大会の拡大（フルコンタクトラグビーに加えてタグラグビー交流大会を実施）
日本代表戦等による国際試合の誘致